

## 質問 (15 条関連)

### 15 条 3.(2)柱梁接合部の許容せん断力と設計用せん断力について

1. P.184 (解 15.19) 式の形状係数 $\kappa$  について、両側に取り付く梁の片側が片持梁であっても、一般階で十字形 ( $\kappa=1.0$ )、最上階で T 形 ( $\kappa=0.7$ ) を採用してよろしいでしょうか。また  $D_j$  を柱せいとしてよろしいでしょうか。
2. 直交梁による補正係数 $\phi$  について、両側に取り付く梁の片側が片持梁であっても、 $\phi=1.0$  を採用してよろしいでしょうか。
3. 杭基礎の場合、杭頭モーメントや基礎の偏心モーメントなどの影響により、特に外端部では基礎梁主筋が増大するため、L 形 $\kappa=0.4$  では梁断面が過大になります。既成杭の杭基礎であっても、接合部はト形としての $\kappa=0.7$  を使用できませんか。
4. P.187 (解 15.27) 式において片側が片持梁の場合、 $T'=0$  としてよろしいでしょうか。通常の外端接合部では大梁の上端引張時で決まるため安全側と思われます。

(匿名希望)

## 回答

1. p.184 式 (解 15.19) は「鉄筋コンクリート造建物の靱性保証型耐震設計指針・同解説」で扱われます。  
本規準では、柱梁接合部の許容せん断力に式 (15.10)、設計用せん断力に式 (15.11) または式 (15.12) を用います。式 (15.10) に用いる形状係数 $\kappa_A$  では片持梁を無視して考えます。また、それらの式に  $D_j$  は含まれていません。
2. 本規準では、直交梁の補正係数 $\phi$  を用いておりません。
3. 本規準の 15 条では、一般階および最上階の柱梁接合部を対象としています。基礎構造部の柱梁接合部を検討する場合には、本規準に準じて設計者が適切に判断する必要があります。
4. 片側が片持梁の場合、 $T'=0$  です。